



Technical Data Sheet (TDS)

シ ッ ス イ (WET SURFACE & UNDERWATER REPAIR EPOXY PUTTY)

KANパテ 湿水リペアー

(湿潤面 & 水中硬化型エポキシパテ)

○製品の特長

- ◇ 湿潤面、水中などの環境はもちろん乾燥状態であっても、安定した接着力と強度を維持する
- ◇ アルミナセラミックパウダーを高充填し、耐摩耗性を向上させキャビテーションなどの損傷補修に最適
- ◇ 使い易いパテ状で、垂直面や天井面でも垂れ難く、塗り易く作業性良好
- ◇ 金属全般に強い接着力があり、特にコンクリート、石材、木材を適切に接着した場合には、母材が破壊するほど強力で接着できる！
- ◇ 電気の不良導体なので、異種金属間の補修・接着をしても電蝕が起こらない！

○主な用途

- ◇ 下水道の水路目地。コンクリートの湿潤面のひび割れ補修、水中、湿潤面での接着充填補修等
- ◇ ポンプケーシング等のキャビテーションやスクリュースクリューコンベアーとそのケーシングの耐摩耗補修
- ◇ 橋梁や歩道橋などの金属部の腐食防食補修や湿った環境での様々な補修に対応

○性状・特性一覧

項目		主剤	硬化剤	備考
配合比率	重量比(wt.)	1	1	
	容積比(vol.)	1	1	
色調	外観	濃灰色	白色	硬化後:灰色
粘度	mPa・s	高粘度ペースト状		
可使時間	分	60		300gスケール、25°C
硬化時間	時間	16		5mm厚み、25°C
比重	硬化物	1.9		
硬さ	ショアード	84		
引張強さ	MPa	17~25		JIS K 6911
曲げ強さ	MPa	30~40		JIS K 6911
圧縮強さ	MPa	60~70		JIS K 6911
引張り剪断接着強さ	MPa	10~13		Fe-Fe/水中接着
建研式接着強さ		1.68 ※1)		コンクリート-Fe/水中接着
		1.37 ※2)		
耐熱温度	°C	100		Max.
塗布可能面積	m ² (5mm厚み時)	0.0625		1set当たり/ロス分見込まず

※上記のデータは、参考値として記載したものであり、保証値ではありません。

※1):「水中浸漬3日間のコンクリート」に「大気中で鉄板にパテを塗布」したものを水中で即時接着して放置/結果は、コンクリートが破壊

※2):「水中浸漬3日間のコンクリート」に「大気中で鉄板にパテを塗布」したものを水中で30分浸漬後に接着し、放置/結果は、接着面が剥がれた

○製品仕様

- ◇ 0.5kgset (主剤:0.25kg入、硬化剤:0.25kg入、ヘラ)

○危険物情報

法規制	主剤	硬化剤
消防法	消防法の非危険物に該当	消防法の非危険物に該当
有機則	該当せず	該当せず

○標準作業法

工程1 下地処理(とても重要!) ☆取れる物は除去すること! ☆

①ケレン

☆下地処理後の表面は、金属面が露出し、ガサガサに粗すのが最高の仕上がりにです! ☆

使用する工具 ⇒ サンドブラスト、ベビーサンダー、ワイヤーカップ、ワイヤーブラシ、サンドペーパー等
一種又は二種ケレンが望ましいですが、現場の状況により異なります。

補修作業全体にかかる仕事量の9割をケレン工程に注ぎ込むぐらい重要な工程です!

ケレンの度合い ⇒ ガサガサの粗い面とは、#40サンドペーパーで金属面に多数のキズを付けるイメージです。

注意! ⇒ 湿潤面、水中での作業時は、可能な限り接着面に付着している異物の除去を実施してください。

②脱脂処理

☆油分、水分を除去する☆

アセトン(塗料屋さんで売ってます)や洗浄スプレー等の油分を洗浄することに優れた有機

溶剤を用いて、完全に脱脂をしましょう! 注意! ⇒ 湿潤面、水中での作業では不要です。

工程2 計量・混合(重要!) ☆配合比率は厳守です! ☆

①計量

見目で主剤と硬化剤を1:1で取り出してください。

②混合・攪拌

☆混ぜ残しの無いように注意して! ☆

主剤と硬化剤が“色調”や“状態”が均一になるように一生懸命混ぜて下さい。

平板の上に主剤、硬化剤を取り出して、コシの強いヘラや皮スキで、すり潰すように混合すると楽に混合できます!

注意! ⇒ 湿潤面、水中での混合作業はできませんので、必ず大気中で実施してください。

工程3 塗布

☆より広く塗布して接着力を向上させる! ☆

①塗布

下地処理の工程で粗面に仕上げた接着面の地肌を擦り込むように、混合したKANパテを押し付けて塗布します。そのあとで5~6mmの厚みをつけて、塗布して下さい。

アドバイス! ⇒ 細かい凹凸に馴染むように塗布すると、ツルツルの面に塗った時の10倍以上の接着力が発現します!

アドバイス! ⇒ ピンホールならφ100mm径、クラックならクラックから片側50mm(左右合わせて100mm幅)を目安に!

注意! ⇒ 水中での塗布作業は、厚手のポリシートへ混合したパテを広めに6~7mmの厚みで塗ります。次に、ポリシートごと水中へ入れ、補修面にパッチ当てをするように貼り付けます。

力加減に気を付けて、シートを押してパテを接着面に馴染ませてください。

注意! ⇒ 水中での作業時、補修部にパテを押し当ててるまでの時間は迅速に行います。

推奨時間は10分以内です。

②仕上げ

☆綺麗な表面に仕上げるためには、有機溶剤を少し使おう! ☆

ゲル化(KANパテの表面に粘りが出てくる状態)したら、薄手のゴム手袋(天然ゴム系)をつけた指先にアセトン等(脱脂洗浄で使った物)の有機溶剤を付けて、優しくパテの表面を撫でると綺麗な感じに仕上がります。

注意! ⇒ 水中での施工では、ポリシートは貼り付けたままで、際をポリヘラなどで軽く押さえて、水との接触を出来るだけ避けるようにしてください。

工程4 硬化養生

☆硬化時間は、温度と塗布厚みで変わる! ☆

KANパテは、気温、接着面の温度、塗布厚みで大きく変わります!

⇒ 温度が高いと早く硬化し、低いと遅くなります。また、塗布厚みが厚い方が早く硬化し、薄いと遅くなります。

⇒ 寒い時(15℃以下)は、投光器、温風ヒーター等で加温すると硬化速度を速めることができます!

アドバイス! ⇒ 水中でポリシートに乗せたパテを貼り付けた時、水温にもよりますが24時間経過後にポリシートを剥がします。適切にパテが硬化していたらポリシートはキレイに剥がすことができます。

注意! ⇒ 湿水リペアーは硬化する前の状態の時、30分以上水と触れると触れている部分が白化することがあります。

白化した部分は適切に硬化していませんが、内側は適切に硬化し、接着力も発現します。

○使用上の注意

1. 爆発性はありませんが、引火性はありますので使用の際、保管の際にも火気には十分に注意を払って下さい!
2. 取扱い作業所には、局所排気装置を設置して換気には注意をすること!
3. 目や粘膜を刺激することがありますので、必要に応じた保護具の着用をお願いします。例えば、安全メガネ、保護ゴーグル、顔面バイザーなど。
4. 皮膚接触を避けるために長袖上着、軍手、ゴム手袋などを装着します。手袋のような保護具でカバーされず、化学物質にさらされる身体部分(顔、前腕、脚部など)は、エポキシ樹脂製品を取り扱う作業を始める前に、保護クリームで保護します。
5. 眼に入った場合: 患部の眼を下になるように頭を傾け、流水でしばらく(アイシャワーの場合10~15分間)洗う。必要に応じ眼科医の診察を受けて下さい。
6. 皮膚接触: 樹脂が付着した衣類を脱ぎ、接触部位を流水で注意深く洗浄する。スキんクリーナーを使うと効果的。患部を滅菌した材料(救急箱にある)で覆う。症状が重い場合は医師の診察を受けて下さい。
7. 吸入したとき: 新鮮な空気の場所に移動させ、換気をし、医師の診断を速やかに受けて下さい。
飲み込んだとき: 大量の水を飲ませ、吐き出しを誘発する。その後医師の診察を受けて下さい。
8. 保管の際は、容器の蓋を密栓し外気と遮断してください。また子供の手の届かない冷暗所に静置して下さい。
9. 漏洩時は、換気を行いながらウエスで拭き取る(少量漏洩)か砂等を撒いてスコップ等で回収(大量漏洩)して下さい。
10. 廃棄の際は、正規の廃棄物処理業者に依頼して下さい。
11. 火災時は、泡消火器や粉末消火器、二酸化炭素消火器を用いて消火活動をして下さい。